

協創インターンシップ「地域と外部との交流拠点整備事業」

団体名●渡邊3年生専門ゼミナール／代表者名●渡邊和道(経済学部講師)

はじめに

2019年9月4日(水)から6日(金)にかけて、金沢星稜大学と石川県信用金庫協会との包括連携協定に基づき、渡邊ゼミナールの学生5名が、興能信用金庫と能登町が進める交流拠点整備事業に参画した。

能登町をはじめとする人口減少が続く地域においては、地域と多様に関わる人の数である「関係人口」を増やしていくことが大きな課題となっている。

活動内容

興能信用金庫と能登町は、空家を活用し、地域内外の幅広い世代が交流できる拠点を整備することを計画している。参加学生は、興能信用金庫と能登町役場の職員の方から地域の実情についてのお話を伺い、交流拠点整備事業をすすめるうえで、高校生や大学生などの若い世代に対するアプローチが必要であると考えた。

学生たちは、SNSの機能を用いたアンケート調査、関係各所へのヒアリング、地元の若手経営者との交流を通じて、提案を練り上げた。具体的には、①若者がSNSの投稿写真をきっかけに行動を決定することから、交流拠点を都市部では撮影できない写真を撮影できるカフェにすること、②当該交流拠点は、アルバイト先が限られている地元の高校生の職業体験の場として活用することなどを提案した。

最終日の報告会では、興能信用金庫理事長、能登町役場町参事をはじめ、たくさんの方から高い評価を得ることができた。

成果、結果の考察

特に、提案②について高い評価を得た。提案内容は、条例へ盛り込まれる予定である。

住民との交流を通じて、「町の外から来てくれる人が増えるのもうれしいけれども、この町で育った子が残ってくれたり、帰ってきてくれたらもっとうれしい」という地元のニーズを学生が汲み取り、有益な提案をすることができた。

今回の活動の様子と成果は、

- ・北陸中日新聞2019年9月7日朝刊18面
- ・ニッキン(日本金融通信社)9月13日号18面にて紹介された。

今後の課題、展望

二泊三日の活動であったため、調査にかける時間と調査手法が限られていた。今後、中長期的な取り組みに発展させることができると考えている。

